

## 旗本那須家の幕末期蔵書目録

大沼 美雄

はじめに

旗本那須家が幕末期に所蔵していた書籍の全体像が把握できる「古書蔵書目録」(那須隆家文書「甲一七の二」)を翻刻する<sup>①</sup>。これは青森県弘前市の那須隆家が所蔵する史料である。那須家は古代末・中世以来の下野国那須郡の領主で、『平家物語』に登場する那須与一宗隆により広く世に知られた名家である。那須家は鎌倉期には幕府を支える有力御家人として、また南北朝期には「関東之八家」の一つとして、関東ではその存在を大きく認められていた。室町期には北那須(那須郡北部)を支配する上那須家と南那須(那須郡南部)を支配する下那須家に分裂したが、戦国

期の永正十三年(一五一六)に下那須家の那須資房によって統一を見ている。その資房の四代後の資晴の時代に、豊臣秀吉の小田原攻めに遅参したことで所領を一時没収されたが、その後再興され、慶長五年(一六〇〇)の関ヶ原の合戦では徳川方に付いて所領を増やし、居館を福原(現大田原市福原)に置いた。また、慶長十九・二十年の大坂冬の陣・夏の陣でも、徳川方に付いて戦功を挙げ家運を高めたが、寛永十九年(一六四二)に跡継ぎのないまま主重が死去し、那須家は除封されている。しかし、その翌年再興され家運は再び上昇して、一時は那須藩二万石の大名家となったが、不法養子のかどで領地を没収され、改易となってしまった。その後は、禄高一千石の外様の旗本(交代寄合、江戸定府)として復興された。

古代中世以来の名家で、近世の一時期には二万石を領したれつきとした大名家であった那須家は、僅か一千石となつても、その「格」は維持して来た。例えば、津軽家（弘前藩）・佐竹家（秋田藩）・本庄松平家（宮津藩）などの大名家と姻戚関係を持ち続け、那須郡内にあつては福原家や芦野家などから構成された那須衆の筆頭としての立場を守り続けていた。また、那須与一宗隆の所持品と伝えられた太刀や、那須頼資が源頼朝から賜つたと伝えられた白旗などの中世以来の戦道具を何点か所蔵していた。それらは、新井白石の『軍器考』巻第九や、松平定信の『集古十種』にも紹介され、享保十二年（一七二七）には徳川吉宗の上覧に供された。それらの品々は近世中期には、その存在が広く知られていたのである。

江戸後期の那須家の当主は、何れも文化教養人であった。那須資明<sup>(2)</sup>は「唐人図」「鍾馗神像」「羅漢図」などの絵画、「詠百首和歌」などの和歌、「詩稿」と題された漢詩文集（「那須隆家文書」甲九・二）を残した。また、祖父資隣<sup>(3)</sup>の時代<sup>(4)</sup>に上覧に供された戦道具数点を正確に図面に描き、寸法等を書き込み、序を撰文し、一卷にまとめて、「軍器図」と名付けた。那須資礼<sup>(3)</sup>は「瑞氣満梅花」「雪月花時

憶君」などの書、「茄子の図」などの絵画のほか、和歌や俳諧の短冊を多数残した。那須資興<sup>(5)</sup>は「換年加寿算」などの書や和歌の短冊などを多数残した。

ここに翻刻する那須家の蔵書目録は、那須資興の代のものであり、資明・資礼・資興らの文化活動を支えた那須家の蔵書がいかなるものであつたかを明らかにする上で有効な史料である。ここに著録された蔵書がどこに所蔵されていたかは明らかではないが、在所の福原（現大田原市福原）とも考えられるが、恐らくは江戸本所の那須家江戸屋敷であつたであろうと推測される。なお、「詩稿」には「静好館図書記」という蔵書印が押してあり、那須資明の書斎内の蔵書であつたことを意味している。

本目録の著録者は未詳である。また、成立年代も正確なところは明らかではないが、『雄飛論』（会沢正志斎）は嘉永三年（一八五〇）、『遊中禅寺記』（板倉勝明）は嘉永四年（一八五二）、『二十四孝伝』（竹葉舎金瓶）は安政二年（一八五五）、『三十二家絶句』（額田正）は安政四年（一八五七）、『西征詩抄（鈔）』（青木錦村）は文久三年（一八六三）の成立であるから、本目録の成立年代が文久三年以後の幕末期であつたことが窺える。外題はペン書きで「古

書藏書目録」とあるが、原題簽が剥落しているための仮題であろう。

本目録には、「御家録」「和歌」「茶書」「官位附装束」「名物」「伝」「学書」「令式并紀年附日記」「柳営并神祇付教訓」「武家」「仏書」「儒経」「医書」「物語」「画」「字書付往来」という項目が立てられている。蔵書はこれによって分類されているが、「儒経」の項に「文徳実録」が収められていることには疑問が残る。

【注】

(1) 本稿は、栃木県立文書館蔵の写真帳第八冊目 (P.T.495) により翻刻した。

(2) 宝暦十年(一七六〇)〜天保三年(一八三二)。安永六年(一七七七)に家督相続。与一・豊太郎・芝山・静好館と称した。なお、静好館は資明の書斎名であり、『毛詩』鄭風、女曰鷓鴣の「琴瑟在御、莫不静好。」(琴瑟御に在れば、静好ならざるは莫し。)を出典とする。「穏やかで(配偶者とは勿論のこと誰とでも)仲睦まじい」という意味であらう。

(3) 「軍記図」については、拙稿「軍器図序」の読み方(『那須野ヶ原開拓史研究』第六〇号、二〇〇六年)がある。

(4) 寛政四年(一七九二)〜文久元年(一八六一)。文化八年

(一八一二)に家督相続。万延元年(一八六〇)に隠居。豊太郎・妻々・妻齋と称した。

(5) 万延元年(一八六〇)に家督相続。明治三年(一八七〇)没。与一・豊太郎と称した。

【付記】

本稿を纏めるに当たり、久野俊彦氏からのご協力を賜りました。ここに厚く感謝申し上げます。

「古書藏書目録」（「那須隆家文書」甲一七の二）

一、底本の行空けは、概ね翻刻に反映させた。

書誌

写本一冊。袋綴じ。表紙左に題簽の貼り跡がある。表紙右にペン書きで「古書藏書目録」と記した紙片を付している。本書は逸題であり、書名は仮題である。縦二五・六糎、横一九・五糎。表紙は白地。紙数は四十丁。半丁あたり八く九行。毛筆書き。

凡例

- 一、翻刻に当たって、漢字は、正字体・通行字体はそのままとし、異体字は原則として通行字体に改めた。変体仮名は平仮名に改めた。
- 一、改丁部分と一丁の表・裏は、「(1オ)」のように示した。
- 一、原本にある見せ消ちは、訂正前の文字に抹消線を付け、その下に（ ）を付して訂正後の文字を入れた。
- 一、明らかな誤記は右傍に\*を付し、その下に（ ）を付して註記した。

古書藏書目録(表紙)

古今遠鏡 三

新題林倭歌集

木(七)

和歌麓の塵

新續題林倭歌集

「(1才白紙)

古今和歌集 缺

壹

歌林雜木抄 缺

「(1ウ白紙)

夫木和歌集目録

壹

幸隆闇書

御家録

歌林尾花末

那須記

八

歌枕秋の寢覚

壹

詞の本末

同

十六

熱田神庫懷紙和歌

壹

和歌ぬさ袋

同拾遺物語

十六

壽楚輪の田井

壹

古言梯

那須記

壹

かさし抄

「(3才)

古言譯解

那須鑑

壹

和歌分類

壹

無名抄

同名所聞傳書

壹

なしのもと

壹

萩の枝折

津輕孝公行実

壹 「(2才)

和歌書

壹

類聚歌合書

和歌

和歌會式

壹

言葉のやちまた

萬葉集略解目録

貳

和歌明題部類

壹

月のかつら

萬葉集

貳

濱のまさこ

壹

和歌詞要抄

古今和歌六帖

壹

語意

一

詠歌大概

新撰和歌六帖

貳

雅言集覽 缺

三 「(3ウ)

持明院家和歌御傳書

古今和歌注 缺

壹

類題和歌集

三十

物名和歌抄

新古今和歌集

貳 「(2ウ)

同補闕

七

井蛙抄

一 「(5才)











馬鎧図	一	幼若補佐心得	一	當麻曼那 <small>(陀)</small> 羅縁起図説	一
日置流射術四卷註書	一	若則	一	勅會御式略図	一
犬追書	一	輔儲類萃	一	浄土十六祖図傳	一
軛記 并古画序	一	嚶鳴館遺草	一	後世の枝折	一
武雜記	二	翹楚篇	一	准三宮傳	一
兵法匹夫受用集	一	其蝸翁草	五	佛說孝子經	一
黃石公三略国字解	一	姬鏡	十六	日光山法華八講記	一
劍術書	一	不亡抄	四	釋普門品重頌	一
官庫武器図説	一	佛書		多度寺資財帳	一
諸鞍日記考註	一	淺草寺志	缺	善光寺縁起	一
七書		寛文記	缺	法相宗章疏	一
射術傳書	十四	往生要集	三	桂川地藏經	一
真禍弓書	一	安心辨疑論要決	一	天台年分学生式	一
兵法雄鑑	一	二月堂縁起	一	控日蓮	一
兵法聞書集	一	宿曜經圖説	一	觀經疏妙宗鈔會本	缺
義經記	式	藥師寺椽銘釋	一	觀發菩提心門	一
英雄百人一首	一	遊行系図	一	作願回向二門	一
武勇魁図會	一	大應国師垂跡	一	松岳山釋并船山墓碑考證	一
弓矢百問答	一	檀像釋尊考證	一	高野大師真跡書訣	一
武器百図	一	檀像瑞像	一	百翁禪師紀年録	一
				融通大念佛縁起	式

破吉利支丹	一	孝經釋義	一	聯珠詩格	一	(28ウ)
佛祖統紀 缺	一	四書問答	一	同 續編	一	
伝教大師将来目錄	一	白鹿洞学規	一	嚶鳴集初編	一	
佛書	一	国基	一	桃花園稿	一	
誠殺放生文	一	徂徠先生学則	一	皞齊存稿	一	
儒經	一	聖学問答	一	甌北詩選	一	
四書	十	古今註	一	西征詩抄	一	
五經	十一	敬齊箴	一	三十二家絶句	一	
趙注孟子 缺	四	唐国史補	一	采風集	一	
詩經集註	八	漢武内傳	一	葛原詩話	一	(29才)
文選正文	十三	滄溟尺牘	一	今四家絶句	一	
史記	廿五	舉張綱目	一	韻府一隅	一	
莊子	十	爾雅翼	一	歷代詩学精選	一	十七
老子	十	事文類集 缺	一	唐宋詩語玉屑	一	五
韓非子	十	古文真寶私考	一	詩学字引大成	一	
世説新語補	十	十八史略	一	聯珠詩格名物図考	一	式
孔子家語	五	五車韻瑞	一	魯寮詩調	一	
列女傳	一	唐詩鼓吹	一	五樂齋遺稿	一	
近思録	一	唐絶寄解	一	麓谷集	一	(29ウ)
御註孝經	一	七才詩集	一	藍水詩抄	一	

東野遺稿	一		五雜俎		
唐詩品彙 缺	一		蒙求	三	治飲卑功
東坡九相詩并和歌	一		新刻蒙求	三	醫原樞要
長恨歌註	一		文政十七家絶句	二	明医雜著
唐詩選国字解	三		日本詩記	二	扁鵲傳解
同諺解	一		文語粹金	二	人參攻
發字四聲便蒙解	一		尺牘彙枋	三	護痘要法
佩文齋韻府使覽		一 (30才)	尺牘楷梯	三	新添脩治纂要
三韻通考			江戸繁昌記	四	醫家人名録
掌中熟字箋 折本	一		静軒文鈔	五	草木いろは分
清新詩題 小本	一		四書輯疏	二	大和本草 缺
詩韻輯要	一				本草和解
徒杠字彙	一		皇朝史略	十五	産家やしない草
春秋讀法	一		文德實録	十	物語
虚字解	一				鳴門中将物語
同續編	一		醫書		源氏物語
習文録	三	一 (30ウ)	ことふき草 缺	四	同 打聞
博物新編	四	一 帙	大同類聚方查苞	一	同 目案
搜神記	三		象方規矩	一	伊勢物語歌抄書
風俗通	四		麻疹提綱	一	同伴翁日記考
					一 (32ウ)

玉琴	缺	一					
類標	土佐日記 枕草紙	一	雪の橘日記	一	南總里見八犬傳	百六冊	
つれづれ草	三	一	畫	一	中将姫無經記	二冊	
同 諺解	缺	一	本朝畫談	一	苜萱道心一枚法語	二冊	
同 野槌	缺	一	同 唐板	一	米澤侯女訓	三冊	(36才)
空物語玉杉	一	一	畫図	一	下懸謡本		
野槌	缺	一	唐畫	一	謡曲拾葉抄		
西行撰集抄	一	一	畫苑補益	八	謡本		
湖月抄	一	一	乾山遺墨	一			
每月抄	一	一	碣石調幽蘭譜	一	字書付往来		(36ウ)
お安物語	一	一	光琳百図	一	平田五代 曆論		
金玉ねちふくさ	五	一	繪本大和錦	三	假字用例		
同			折本	一	某議和書		
稻生物語	三	一	画本	十五	隸八分詳説		
白浪紀事	三	一	古瓦譜	一	來离*(禽)堂書状		
長短雜話	一	一	和漢書画諸名落款	一	明道書		
行在或問	一	一	画家落款印譜	一	乳母の文		
方丈記諺解	一	一	文晁日新録	一	字書		
しりうこと	三	一	本朝畫家大綱	一	時文摘紙		(37才)
沢庵和尚 柳生但州物語	一	一	釋迦御一代記	六冊	梅花心易		

和玉篇  
 常語數  
 庭訓往来  
 假字便覽  
 曆數便覽  
 袖珍名乗字引  
 菅家往来

— — — — —  
 — — — — —  
 (裏表紙 白紙) (38才・ウ白紙) (37ウ)